

環境自主行動計画(温暖化対策)の策定について

☆はじめに

京都議定書

2008年～2012年までに温室効果ガスを1990年度比で**6%削減**

(内訳)国内排出量の削減 $\Delta 0.6\%$

森林吸収源 $\Delta 3.8\%$

京都メカニズム(排出権取引など) $\Delta 1.6\%$

運輸部門の目標

運輸部門: 貨物自動車、自家用乗用車、バス、タクシー、鉄道、航空、船舶

2010年度までに1990年度比でCO2を**10.3～11.9%増に抑えること**

1990年度 (基準年)	2007年度 (速報値)		2010年度 (目標)	
	実績 (百万トン)	基準年比 (%)	目標 (百万トン)	基準年比 (%)
217	249	+14.6	240～243	+10.3～+11.9

環境自主行動計画

環境自主行動計画とは・・・

1997年より、業界団体や企業が地球温暖化対策として目標、具体的な自主行動計画を策定し、経団連が全産業の計画をとりまとめ

業界の目標指標

業界の努力の及ぶ範囲であることから、CO₂排出量ではなくCO₂排出原単位(輸送トンキロあたりのCO₂排出量)を数値目標に設定

2007年度実績

軽油使用量 17,044,948kl・・・①

CO₂排出量 ①×2.589(排出係数)=4,412万トン・・・②

輸送トンキロ 310,185百万トンキロ・・・③

② ÷ ③ = 0.142 kg-CO₂/トンキロ

※参考 2004年度(数値目標設定) 0.158 kg-CO₂/トンキロ

2010年度目標

エコドライブ、輸送効率化、低公害車の導入、車両の燃費向上等により、更なる原単位の向上 → 0.137~0.147 kg-CO₂/トンキロ

国交省、経団連への「環境自主行動計画」では、上限の0.137kg-CO₂/トンキロをベースに計画を策定